



“Pure CS” Project Photo Letter



No. 11, June 2019

エイヤワディー地域では6月に入ると雨期も本格化してきましたが、パテインとピヤボンの普及員圃場実習では雲の切れ間から、束の間の青空が広がりました。農家からはここ数年間の降り方が変化して、ゲリラ豪雨が多くなったとか、雨明け後の雨で倒伏したと言う話をよく耳にします。気候変動の影響でしょうか、日本の水田面積の約80%を擁する広大なエイヤワディー地域内で、降雨の変化に合わせて作型も多様化してきたような気がします。

2019年度パテイン第1・2回普及員研修：パテインでも2019年度の普及員研修が始まりました。6月4・5日にはCS生産の基礎技術、普及活動計画の策定及び苗床づくりと播種実習。6月24・25日はイネの生殖生理と品種の形質及び田植え実習を行いました。研修ではエイヤワディー地域中西部の3県から毎回合計68名の参加者が集まり、熱心な質疑応答が繰り広げられるとともに、実習にも積極的に参加していました。（写真：左から、JICA専門家による講義、苗代及び田植え実習、株間を広く取っています）



2019年度ピヤボン第2回普及員研修：ピヤボンでは5月下旬の第一回研修に引き続き6月18・19日に、パテインと同様にイネの生殖生理、品種の重要形質と異株の除去及び田植え実習を行いました。ミャンマーでは若い女性の普及員が過半数を占めていますが、圃場実習には全員が積極的に参加し、基礎的技術を体得しています。研修教材は普及員が農家研修で使えるように、CDで参加者全員に配布しています。（写真：左から、JICA専門家による講義、カジュアル?で田植えをする普及員、田植え/整条植え実習）



BS（育種家種子）モニタリングチーム発足：5月31日に引き続き、6月4、13、28日に首都ネピドーにてDr. Naing Kyi Win農業研究局長を議長とするBS品質管理会議が開催され、遺伝的純度の維持向上について協議するとともに、JICA専門家を含むモニタリングチームを組織してBS増殖工程の品質管理を監視することにしました。（写真：左から、BS播種床、BS品質管理会議、実習中の普及員：顔に塗っているのは、「タナカ」という柑橘系の樹の幹を水と一緒にすり潰してペースト状にした日焼け止めです。）



エイヤワディーはシュエポーより一足早く種子生産本番です。今年も昨年と同様に大きな洪水に見舞われることなく恵みの雨でありますように。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設していますのでご覧ください。（編集委）